平成 16 年 12 月 7 日

各　　位

会 社 名　帝国臓器製薬株式会社
代表者名　代表取締役社長　山口　　隆
（コード番号　４５１４　東証第一部）
問合せ先　法務広報部長　　大塚　　勉
（ＴＥＬ．03－5484－8366）

会 社 名　グレラン製薬株式会社
代表者名　代表取締役社長　野口　尚志
問合せ先　総務室長　　熊谷　幸男
（ＴＥＬ．03－5651－8050）

合 併 に 関 す る お 知 ら せ

帝国臓器製薬株式会社（本店：東京、代表取締役社長：山口　隆、以下「帝国臓器製薬」）とグレラン製薬株式会社（本店：東京、代表取締役社長：野口 尚志、以下「グレラン製薬」）は、両社の株主および関係官庁の承認を前提として、本日合併契約書を締結いたしましたのでお知らせします。

本合併につきましては、2005年2月に開催を予定しております両社の臨時株主総会に本合併契約書の承認を付議いたし、2005年10月1日を合併期日とする予定です。

記

１．合 併 の 趣 旨

製薬企業を取り巻く経営環境は、医療費抑制策の一環としての薬価引下げなど薬剤費抑制の一層の浸透、欧米を中心とした海外製薬企業の攻勢による国内市場のグローバル化進展に伴う競争が激化しております。

このような厳しい環境の中、帝国臓器製薬とグレラン製薬は、持続的な成長を遂げるためには、①新薬を継続的に産み出す開発重視型の企業風土、②強い営業力、③堅固な財務基盤　の全てを併せ持つ必要があるとの認識に至っております。

帝国臓器製薬とグレラン製薬は、強い競争力を有する研究開発型製薬メーカー、すなわち“スペシャリティーファーマ”を志向し、両社の合併について検討してまいりましたが、この度合併契約を締結いたしました。

本合併は、両社の研究開発力・営業力・堅固な財務基盤を統合することにより、合併後の新会社の飛躍的な成長の原動力とすることにより、株式価値の最大化を図り、また人々の健康への一層の貢献を目指していく所存です。

２．合 併 の 要 旨

（１） 合併の日程

合併契約書承認取締役会	平成16年12月7日
合 併 契 約 書 の 締 結	平成16年12月7日
合併契約書承認株主総会	平成17年2月25日（予定）
合 併 期 日	平成17年10月1日（予定）

（２） 合 併 方 式

両社対等の精神をもって合併いたしますが、法手続き上は、帝国臓器製薬を存続会社とする吸収合併方式といたします。

（３） 合 併 比 率

会 社 名	帝国臓器製薬株式会社 （存続会社）	グレラン製薬株式会社 （被合併会社）
合 併 比 率	1	1.5

(注) １．株式の割当比率

グレラン製薬の普通株式１株につき、帝国臓器製薬の普通株式1.5株の割合をもって割り当てることとします。

なお、株式価値総額ベースでの帝国臓器製薬とグレラン製薬との比率は1：0.28となります。

２．合併比率の算定根拠

合併比率の算定については、各々独自に依頼したファイナンシャル・アドバイザーによる合併比率の評価を踏まえ、両社が交渉・協議を行い決定いたしました。なお、本合併比率について、帝国臓器製薬は日興コーディアル証券株式会社に、グレラン製薬は株式会社アライアンスにそれぞれ合併比率の算定を依頼しています。

ただし、この合併比率は、算定の基礎となる諸条件に重大な変更が生じた場合は、両社協議の上、変更することがあります。

３．第三者機関による算定結果、算定方法及び算定根拠

日興コーディアル証券株式会社は、帝国臓器製薬につき株式市価基準方式・ＤＣＦ方式・修正純資産方式・類似公開企業比較方式による分析・株式価値評価を実施し、グレラン製薬株式会社につきＤＣＦ方式・修正純資産方式・類似公開企業比較方式による分析・評価を実施しています。

株式会社アライアンスは、帝国臓器製薬につき市場株価平均方式、ＤＣＦ方式、修正純資産方式、グレラン製薬につきＤＣＦ方式、類似公開企業比較方式、修正純資産方式による分析・評価を実施しています。

４．合併により発行する新株式数（予定）

普通株式　6,605,199株

（４） 合 併 交 付 金

グレラン製薬の中間配当金に代えて合併交付金を支払う場合を除き、合併交付金の支払いの予定はありません。

３．合併当事会社の概要　　（平成16年9月30日現在）

商号	帝国臓器製薬株式会社 （存続会社）	グレラン製薬株式会社 （被合併会社）
主たる事業内容	医薬品、医薬部外品、食品、医療用機械器具の製造・販売、および輸出入など	医薬品、医薬部外品、食品、医療用機械器具の製造・販売、および輸出入など
設立年月	1929年6月	1950年3月
本店所在地	東京都港区芝浦二丁目5番1号	東京都羽村市栄町三丁目4番地3
代表者	代表取締役社長　山口　隆	代表取締役社長　野口　尚志
資本金	1,197,900千円	220,420千円
発行済株式数	23,958,000株 （平成16年9月30日現在）	4,408,400株 （平成16年9月30日現在）
株主資本	32,875,702千円	996,985千円
総資産	44,866,860千円	9,240,763千円
決算期	3月31日	3月31日
従業員数	860名	277名
主要取引先	武田薬品工業株式会社、 住友製薬株式会社	武田薬品工業株式会社
大株主及び持株比率（%） （平成16年9月30日現在）	株式会社東京三菱銀行　4.83 ﾓﾙｶﾞﾝｽﾀﾝﾚｰｱﾝﾄﾞｶﾝﾊﾟﾆｰｲﾝｸ　4.19 山口栄一　4.00 武田薬品工業株式会社　3.81 ﾋﾞｰﾋﾞｰｴｲﾁﾎﾞｽﾄﾝ・ﾊｰﾄﾗﾝﾄﾞ・ﾊﾞﾘｭｰﾌｧﾝﾄﾞｲﾝｸ　2.92 日本生命保険相互会社　2.41 トーア再保険株式会社　2.08 （注）当社は自己株式540千株（2.27%）保有しております。	長瀬産業株式会社　34.02 武田薬品工業株式会社　18.00 野口　尚志　15.89 グレラン製薬従業員持株会　10.14 株式会社東京三菱銀行　3.97 金澤　一　2.82 株式会社ＵＦＪ銀行　1.58
主要取引銀行	東京三菱銀行、ＵＦＪ銀行	三井住友銀行、東京三菱銀行
株主数	3,921名	110名
当事会社の関係	資本関係	なし
	人的関係	なし
	取引関係	なし

最近３決算期間の業績（連結）　　（単位：千円）

	帝国臓器製薬株式会社（存続会社）			グレラン製薬株式会社（被合併会社）			
決算期	平成14年3月期	平成15年3月期	平成16年3月期	平成13年9月期	平成14年9月期	平成15年3月期	平成16年3月期
売上高	22,448,123	21,157,287	20,188,209	7,773,726	8,141,874	4,541,193	8,764,999
経常利益	2,236,588	1,289,681	530,749	249,709	526,579	634,763	896,261
当期純利益	712,882	121,816	271,086	240,021	262,734	238,043	168,470
1株当たり当期純利益(円)	29.75	5.07	11.57	54.45	59.63	53.52	36.88
1株当たり配当金（円）	8.00	8.00	12.00	―	5.0	2.5	5.0
1株当たり株主資本（円）	1,350.84	1,352.00	1,409.55	273.04	153.00	199.77	226.60

(注) 1．グレラン製薬の平成15年3月決算期は決算期変更に伴う6ヶ月決算での数値であります。
2．グレラン製薬は連結決算を行っておりませんので、単体決算の数値を記載しております。

４．合併後の状況

(1) 商号　　未定（今後両社協議の上、決定いたします。）
(2) 事業内容　　医薬品、医薬部外品、食品、医療用機械器具の製造・販売、および輸出入など
(3) 本店所在地　　東京都港区芝浦二丁目5番1号
(4) 代表者　　代表取締役社長　山口　隆
代表取締役副社長　野口尚志
(5) 資本金　　1,197,900千円
(6) 総資産　　未定
(7) 決算期　　3月31日
(8) 業績に与える影響　　帝国臓器製薬の今期の業績に与える影響はありません。来期以降につきましては、下記「(9)合併後の業績見通し」及び「(10)合併後の連結業績見通し」の項に記載しております。

(9) 合併後の業績見通し（2期分）

	平成18年3月期	平成19年3月期
売上高	25,600百万円（ 5,000百万円）	31,500百万円（10,400百万円）
営業利益	1,600百万円 （ 740百万円）	2,870百万円 （1,670百万円）
経常利益	1,580百万円 （ 590百万円）	2,730百万円 （1,400百万円）
当期純利益	830百万円 （ 340百万円）	1,530百万円 （ 820百万円）
１株当たり当期純利益	27円64銭	50円96銭

(注) 1．(　　)内は合併による影響見込額であります。
2．当期純利益については、課税額等により変動する可能性があります。
3．平成18年3月期は、被合併会社の決算は半期分のみが影響見込額として取込まれています。
4．上記見通しは、両社の予想値の単純合算であり、合併後のシナジー効果については現在検討中であります。

(10)　合併後の連結業績見通し（2期分）

	平成18年3月期	平成19年3月期
連結売上高	25,800百万円（5,000百万円）	31,600百万円（10,400百万円）
連結営業利益	1,650百万円（　740百万円）	2,900百万円　(1,670百万円）
連結経常利益	1,630百万円（　590百万円）	2,770百万円　(1,400百万円）
連結当期純利益	870百万円（　340百万円）	1,560百万円　（　820百万円）

(注) 1．(　　)内は合併による影響見込額であります。

2．当期純利益については、課税額等により変動する可能性があります。

3．平成18年3月期は、被合併会社の決算は半期分のみが影響見込額として取込まれています。

4．上記見通しは、両社の予想値の単純合算であり、合併後のシナジー効果については現在検討中であります。

以上

共同記者発表資料

私たちは、競争力のあるスペシャリティーファーマを創設し、人々の健康に貢献することをめざします。

帝国臓器製薬株式会社

GRELAN グレラン製薬株式会社

2004年12月7日
帝国臓器製薬株式会社
グレラン製薬株式会社

帝国臓器製薬・グレラン製薬合併の趣旨

両社の強みを活かし、研究開発型製薬企業として
強固な基盤の構築をめざします。

(2004年3月末現在)

	帝国臓器製薬株式会社	グレラン製薬株式会社
設立	1929年 6月	1950年 3月
本店所在地	東京都港区芝浦	東京都羽村市
資本金	1,197百万円	220百万円
上場市場	東証1部 (4514)	未上場
売上高	20,188百万円	8,765百万円
経常利益	530百万円	896百万円
決算期	3月	3月
社員数	連結 901名	269名
代表者	取締役社長 山口 隆	取締役社長 野口尚志
発行済株式数	23,958千株	4,408千株
URL	http://www.teikoku-hormone.co.jp	http://www.grelan.co.jp

本合併の概要

- 方法　：　合併
- 合併期日　：　2005年10月1日【予定】
- 存続会社　：　帝国臓器製薬株式会社
- 合併比率　：　帝国臓器製薬：グレラン製薬=1：1.5

※グレラン製薬株式1株につき、帝国臓器製薬の株式1.5株の割合をもって割り当て交付します。
株式価値総額ベースでの帝国臓器製薬とグレラン製薬の比率は、1：0.28です。

新会社の概要

- 商号　：　未定（今後両社協議の上決定）
- 本店所在地　：　東京都港区芝浦二丁目5番1号
- 代表者　：　取締役社長　　山口　隆
　　：　取締役副社長　野口　尚志
- 資本金　：　1,197,900千円

利益及び資産状況

(百万円)

2004年3月期	帝国臓器製薬(連結)	グレラン製薬(単体)
売上高	20,188	8,765
営業利益	417	972
経常利益	530	896
当期純利益	271	168
総資産	44,938	10,733

合併の背景
～製薬企業を取り巻く環境変化～

- グローバル化に伴う競争激化
- 医療費抑制策の浸透

⇒厳しさを増す環境の中、継続的に医療現場のニーズに沿った新薬を創出できる企業のみが生き残り、成長できる。

合併の背景
～私たちの考える「スペシャリティーファーマ」～

- 特定領域に集中して医療現場のニーズに沿った新薬を創出できる研究開発力
- 特定領域に強い営業力
- 堅固な財務基盤

これらを全て併せ持つ！

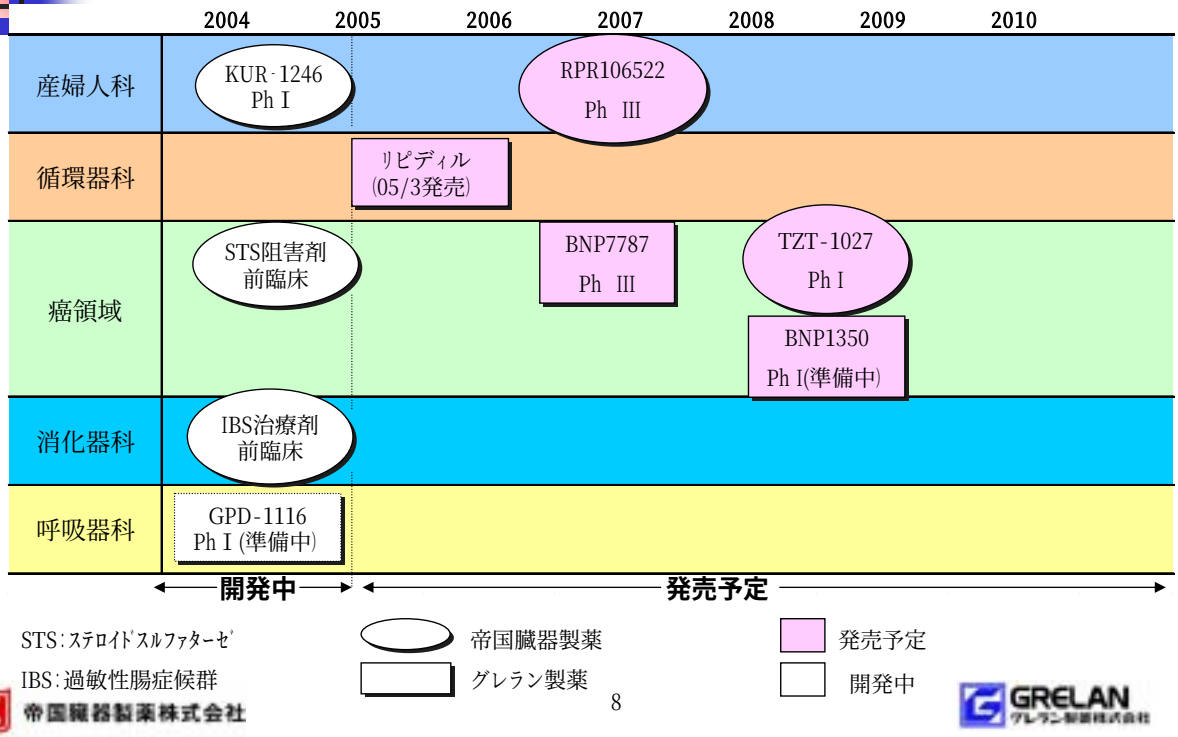
帝国臓器製薬・グレラン製薬合併の効果

研究開発力の強化：
- 新薬パイプラインの充実
- 技術融合によりバランスの良い研究＋開発の体制を確立
- 選択と集中による研究開発投資の効率化

営業力の強化：
- MR400人体制
- 重複のない品揃え
- 主力製品への集中化

収益構造の改善：
- 主力製品の売上の増加
- 合理化効果による中短期的なコスト削減

研究開発力の増強 (1)
～新薬パイプラインの充実～



帝国臓器製薬株式会社

GRELAN グレラン製薬株式会社

研究開発力の増強 (2)
～両社の研究開発技術の融合～



帝国臓器製薬川崎研究所 (神奈川県川崎市)



グレランリサーチセンター (東京都羽村市)

両社の研究開発技術の融合により、
スペシャリティーファーマとしての
研究と開発の質を高めます。

帝国臓器製薬株式会社

GRELAN グレラン製薬株式会社

研究開発力の増強 (3)
～選択と集中による研究開発投資の効率化～

	帝国臓器製薬株式会社	グレラン製薬株式会社	新会社 (商号未定)
重点領域	泌尿器科 消化器科 産婦人科 癌関連	循環器科 内科 (高脂血症領域) 癌関連 耳鼻咽喉科 呼吸器科	研究の質の向上 開発の質の向上 技術融合 関連分野における シナジー効果 選択と集中による効率化 ・重点疾患・領域 ・開発期間短縮
研究者数	約150名	約30名	
研究開発費	約40億円	約10億円	

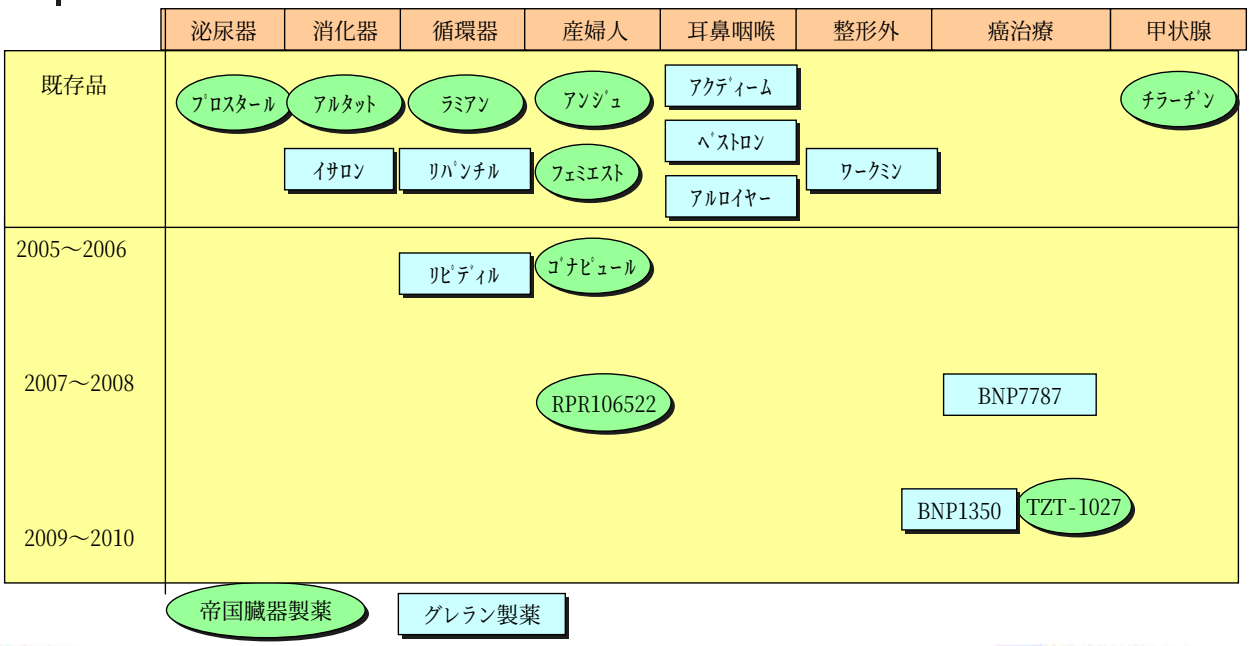
営業力の強化 (1)
～ MR400人体制～

組織営業によるカバレッジの拡大

- 地域密着型の営業拠点の整備、MR再配置による効率行動の確立
- 重点領域におけるMR機能強化(質の向上) の推進
- 販社・医薬品卸との連携強化に向けた組織強化の推進
- MR支援システム (IT)の拡充

営業力の強化 (2)

～重複のない品揃え～
主力製品への集中化による売上増加

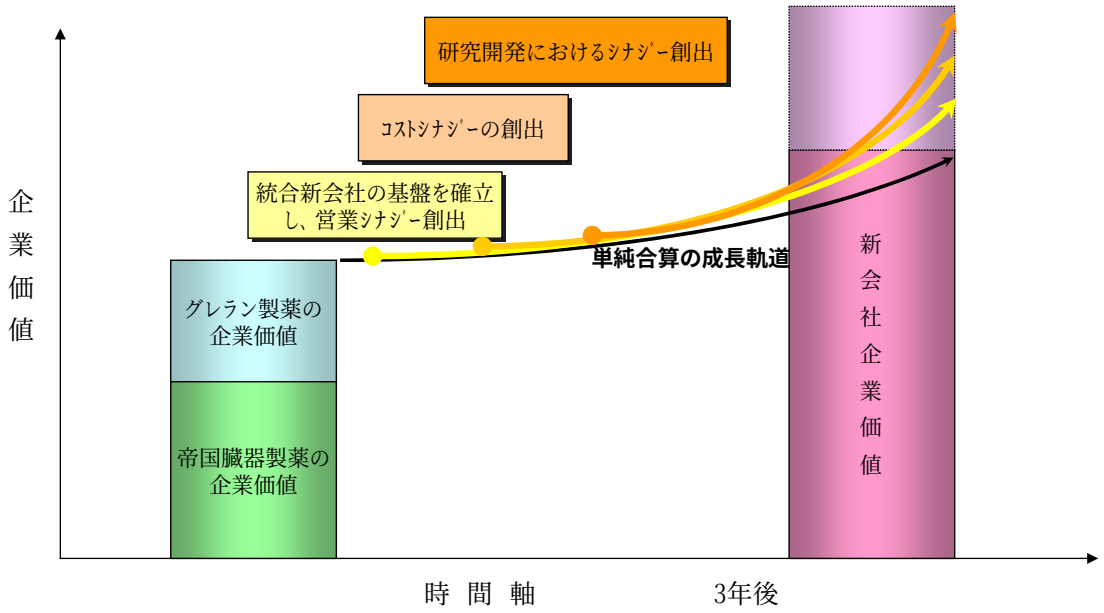


収益構造の改善

～合併による合理化効果～

- 重複コストの削減
- 拠点の統廃合
- 新人事制度の導入
- 現在2社合計　1,170人体制を
  中期的に　900人体制

さらに期待されるシナジー効果



生まれ変わった新しい会社の中期的目標

- 3年後 ： 売上高330億円、経常利益35億円
- 株主への利益還元（配当性向最大50%目標）

目標達成に向けてのシナリオ

2005年～2006年 【飛躍に向けての足固め】	2007年～2008年 【拡大発展期】

- リピディルの発売
- 新組織体制の確立
- 新薬販売基盤の確立
- コストシナジーの創出
- 研究開発におけるシナジー効果の結実

- 新薬2製品発売
  BNP7787
  RPR106522

各新薬の特徴 (1)

10月承認取得

- リピディル(高脂血症治療剤) (G)
- 2005年発売予定
- 科研製薬、帝人ファーマ (トライコア) と販売提携し、2ブランド3チャネルで市場展開
- 100億円 (3社) の売上目標
- 微粉化製剤による競合品との差別化

各新薬の特徴 (2)

Phase III

- BNP7787(抗癌剤補助療法剤) (G)
- 2007年発売予定、商品名『タボセプト』
- 米国バイオベンチャーBioNumerik社との共同開発
- 癌化学療法による副作用である神経毒性の軽減
- 世界初の抗癌剤補助療法剤 (神経毒性) として市場の拡大が見込まれる
- 2001年にバクスターが欧州、2004年10月に武田薬品工業が米国･カナダにおける販売権を獲得
- 欧米ともに第III相臨床試験実施中

各新薬の特徴 (3)

Phase III

- RPR106522(更年期障害治療貼付剤) (TZ)
- 2007年発売予定　ヤクルトとの共同開発
- 更年期領域で貼付剤市場は拡大中
- 既発売品のフェミエストとの品揃えで婦人科領域に注力
- 市場シェア20%獲得が目標

臨床試験段階にある新薬の特徴 (1)

Phase Ⅰ (準備中)

- **BNP1350** (抗癌剤) (G)
- BioNumerik社が創薬した新規のカンプトテシン誘導体
- 非小細胞肺癌、結腸癌、直腸癌、脳腫瘍に対する優れた抗腫瘍効果が認められている
- 注射剤、経口剤としての開発を実施している
- 米国にて第Ⅱ相臨床試験実施中

臨床試験段階にある新薬の特徴 (2)

Phase Ⅰ

- **TZT-1027** (抗癌剤) (TZ)
- 固形癌 (大腸癌、胃癌、乳癌、肺癌) に抗腫瘍効果が期待されている
- 海外での開発権は第一製薬にライセンスアウト
- 第一製薬が、欧米で第Ⅱ相臨床試験実施中
- 国内は第一製薬と共同で第Ⅰ相臨床試験実施中

臨床試験段階にある新薬の特徴 (3)

Phase Ⅰ(準備中)

- GPD-1116 (慢性呼吸器疾患治療剤) (G)
- 自社開発品。喘息、慢性閉塞性肺疾患治療剤 (PDE4阻害剤) であり、副作用が弱く、安全性が高い
- ドイツにおける第Ⅰ相臨床試験実施準備中

臨床試験段階にある新薬の特徴 (4)

Phase Ⅰ

- KUR-1246 (切迫流早産治療剤) (TZ)
- キッセイ薬品と共同開発で第Ⅰ相臨床試験を終了し、今後の開発方針を検討中

前臨床試験段階にある新薬の特徴

- **STS阻害剤** (TZ)
  - STS阻害による乳癌治療剤
- **IBS治療剤** (TZ)
  - 過敏性腸症候群 (IBS) の疾患が認知されてきており市場の拡大が予測される

今後の日程

2004年12月7日　合併契約書締結

2005年2月25日　臨時株主総会・合併承認【予定】

2005年10月1日　合併期日【予定】

私たちは、競争力のあるスペシャリティーファーマ
を創設し、人々の健康に貢献することをめざします。

帝国臓器製薬株式会社

GRELAN
グレラン製薬株式会社

将来予測に関する注意事項

当資料に記載されている見通し数値は、現時点において入手可能な情報から得られた判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含む仮定や考え方に基づくものであり、業績見通し等は、実際のものとは大きく異なる結果となる場合もあります。また、記載された計画数値や施策の実現を確約したものではありません。